

次世代につなげる森林づくり

R6.6.21 NO.51 号



～有害鳥獣捕獲わなの設置方法を学ぶ～

もみのお

令和6年6月12日、梅雨入り直後にもかかわらず炎天下の中、四万十署管内の縦ノ尾山国有林4002林班において、局職員5名、四万十署職員4名で、シカ・ノウサギ捕獲用わな設置の勉強会を実施しました。

この勉強会は、6月3日に行われた基礎全般研修で実施した有害鳥獣捕獲研修(実技)で、「こじゃんと1号」、「足くりわな」、「針金の胴くりわな」の組み立て方法などを座学等で学習してもらった際は、設置場所等の口頭説明のみで、参加者から、「実際に罠を設置するときには、是非声を掛けて欲しい」との要望があり、今回の勉強会を実施することとしました。

現地では、設置場所に向かう途中、林道を歩きながら技セン担当者から、シカ、ノウサギの通り道、嗜好性植物の食痕、足跡、糞など動物の痕跡、動物の生態などについての説明を受け、それぞれの設置箇所の決定理由などを確認しながら、実際に罠の設置に取り組みました。



こじゃんと1号 設置の様子

最初は、「こじゃんと1号」設置です。

設置場所について、獣道との関係が捕獲効率に大きな影響を与えることなどを確認しながら、罠の固定杭を重たいハンマーで叩きながら設置するなど、前半戦で大汗をかくこととなりました。



足くりわな バネを締め付けている様子

次に「足くりわな」の設置です。

企画官から小林式(※)の捕獲効率の説明のあと、各職員が罠の設置を行いました。罠を作動させるためのバネを締め付けるという力仕事に一苦労しながら取り組んでいました。

※小林式とは、誘引餌の使い方を工夫した足くりわな(笠松式)での捕獲方法



小林式 設置の様子

最後は、「ノウサギ捕獲用の胴くりわな」の設置です。

座学等での研修とは違い、実際の獣道に設置するためか、職員の表情も自然と真剣になり、もくもくと設置作業に取り組んでいました。

作業終了後は、今日一日の自分たちの成果を確認しながら、満足そうに出来栄を評価していました。



今回の勉強会では、罠の組み立て方を覚えることも大事ですが、実際、現地で状況を確認しながら設置を体験することで、臨機応変に取り組むことが捕獲効率の向上に繋がるということを肌で感じることができたと思います。今後も、機会をとらえて現地での勉強会を開催していきたいと考えています。

獲効率の向上に繋がるということを肌で感じることができたと思います。今後も、機会をとらえて現地での勉強会を開催していきたいと考えています。

森林技術・支援センターでは、獣害対策及び捕獲技術の継承に引き続き取り組んでまいります。

各種試験調査・見学のお問い合わせは

四国森林管理局 森林技術・支援センター

☎ 088-821-2250

e-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp

